特集

只見ユネスコエコパーク登録10周年記念 その成果と課題

平成26年6月12日に登録となった只見ユネスコエコパークは、今年登録10周年を迎えます。只見ユネスコエコパークが目指しているのは、只見地域の豊かな自然環境と野生生物を守り、生かしながら、そこで育まれた伝統的な生活文化を維持・継承する、持続可能な地域社会の発展です。

登録から10年が経ち、只見ユネスコエコパークでは、過疎高齢化が進むなか、地域課題に向き合い、それら課題の解決と自然と人が共生する地域の実現に向けて活動してきました。人でいえばまだ10歳です。できるようになったこともあれば、まだまだできていないこともたくさんあります。

本特集では、誕生から10年を祝いつつ、「ユネスコエコパークとはなんだろうか」から始まり、「只見ユネスコエコパークの特徴」、「この10年の変化・活動と成果」、「今後の課題」、「次の10年に向けて」についてお伝えします。

ユネスコエコパークってなんだろう？

ユネスコエコパークとはスイスに本部がある国際機関ユネスコが認定した**「自然と人間が仲良く暮らしている世界のモデル地域」**（自然と人間が共生する世界のモデル地域）のことです。

どうしてそのようなモデル地域が必要なのでしょうか？

私たち人間は自然や野生生物を利用しながら生きていますので、無理のない範囲で自然を守り、活かしながら、自然とともに人が暮らしていけるモデル地域が必要なのです。ユネスコエコパークは地域の課題に向き合いながら、そんな地域の実現を目指しています。

只見ユネスコエコパークの自然と暮らし

只見ユネスコエコパーク登録地域の豊かで貴重な自然環境や野生生物、
それらをより所とする住民の暮らしが、国際機関ユネスコに認められています。

豪　雪

豪雪が作用して、つくり出される

雪を克服し、活かすくらし

自然環境・野生生物

豪雪が育む自然
―「雪食地形」と「モザイク植生」―

只見の山々は、主に比較的もろい凝灰岩（ぎょうかいがん）でできているため、豪雪による雪崩によって山の斜面は常にけずられます。そこにはほとんど木が生えない「雪食地形（せっしょくちけい）」がつくられ、残った細い尾根の上には列状に「キタゴヨウ」が、緩い山腹や削られた土砂がたまった斜面の下には「広葉樹自然林」と「人工林」が育っています。このような複雑な地形に多様な植生がモザイク状に広がっています。標高１，０００m以下でのこうした景観は極めて珍しく、自然度の高い状態で残されています。

▲雪食地形とモサザイク植生

▲代表的植生のブナ林

豊かな生態系を象徴する動植物

変化に富む植生は、多様な野生生物の生育・生息を可能にします。豊かな生態系を象徴する大型猛禽類のイヌワシ、クマタカ、大型哺乳類のツキノワクグマが生息するとともに、多雪地帯に生育する希少種ヒメサユリ、新種として発見されたタダミハコネサンショウウオなどが見られます。

▲ヒメサユリ

▲ツキノワグマ

▲タダミハコネサンショウウオ

くらしに必要なものを提供

持続可能な利活用

人の暮らし

只見の自然をより所とした生活文化

只見地域に人が本格的に住み始めたのは縄文期と考えられています。現在でも縄文文化（狩猟、採集、漁撈）を底流として集落背後の山から生活に必要なものを手に入れる生活文化があります。豊かな自然環境は現在でも良質な農産物の生産を支えています。

▲寒冷な気候で保存（ダイコンニュー）

▲乾燥ゼンマイづくり

▲伝統芸能（小林早乙女踊り）

▲山菜・農産物などの田舎料理

▲植物を使った編み組細工

▲様々な蜜源植物を利用した養蜂

▲豊かな自然が生み出す美味しい米

▲薪材利用（低炭素社会の実現）

10年の主な変化・活動と成果

豊かな自然や伝統的な文化を守り、地域資源を持続可能な形で利活用する中で地域社会の維持・発展を図るため、ユネスコエコパークの3つの目標に沿った形で活動を進めてきました。

▲ユネスコエコパークの3つの目標

自然環境の保護・保全

行動 「只見町の野生動植物を保護する条例」の制定と運用

成果 貴重な野生生物の不法な盗採、捕獲件数の減少。保護・保全の機運向上。

▲「只見町の野生動植物を保護する条例」を周知する横断幕

行動 「越後三山・只見国定公園」、「森林生態系保護地域」の拡張

成果 自然環境・生物多様性の保護・保全機能の強化

学術調査研究・人材育成

行動 『自然首都・只見』学術調査研究助成金制度

成果 67件の研究者等へ助成（2012～2024）。成果発表会、論文発表による町への還元。

▲只見町の新たな科学的価値を解明する研究者らの調査

行動 ユネスコスクールへの加盟

成果 町内小中学校のユネスコスクール加盟。只見学、ESDの推進。

▲只見町の自然を活かした環境教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進

行動 文化施設の整備

成果 「ふるさと館田子倉」（2016年）、「ただみ・モノとくらしのミュージアム」（2022年）の開館

行動 「只見町公認自然ガイド」の育成と認定

成果 10人のガイド認定（2024度時点）。研修によるスキル向上。

▲自然環境を活かした観光を推進する担い手となるガイドの育成

行動 「自然環境、社会文化基礎調査」の実施

成果 只見町の自然や文化の新しい価値（新種の発見、古民家の特徴など）が明らかに、地域資源を守り、生かすための基礎資料が蓄積

地域資源を持続可能な形で利活用した地域振興

行動 「自然首都・只見」伝承産品ブランド化事業

成果 36品目の認定。新たな産品の開発。伝統文化の復活。伝承産品を通した町の自然・文化の魅力発信

▲自然や文化を活かし、町民が作る地域ブランド「自然首都・只見」伝承産品

行動 ← **成果**

「ブナ林ブレンド開発事業（ブナ林樹木の枝葉の活用）」

ブナ林樹木の枝葉の活用した商品（お茶、クッキーなど）の開発

行動 ← **成果**

森林育成のための薪エネルギー活用事業

薪ステーションの新設。（今後、森林整備の進め方を検討）

行動 ← **成果**

「ただみ観察の森」の指定と整備

9箇所の観察の森の指定。エコツアー、学校教育、研修等での活用。

▲只見の自然や文化を身近に触れることができる「ただみ観察の森」を整備する町民

交流等

行動 ← **成果**

全国ブナ林フォーラム（2018年）の開催

「自然首都・只見」2018年宣言等、ブナ林地域との交流

▲ブナ林の保護・保全、持続可能な利用を再確認した「自然首都・只見」２０１８年宣言

今後の課題

- 只見ユネスコエコパークの豊かな自然環境や山間地域の生活や文化に親しみ、体験するエコツーリズム・グリーンツーリズムの推進
- ＪＲ只見線の魅力化を図り、地域観光の柱とする
- 只見ユネスコエコパークの自然や生活文化を活かした学校教育、社会教育、文化活動の推進
- 森林育成で生じる間伐材を燃料材と利活用し、低炭素社会、町内経済循環を生み出す中での、持続可能な林業の実現
- 自然環境・野生生物に配慮した道路や河川改修などの社会インフラ整備
- 大規模開発事業（国道289号八十里越の工事・開通、滝調整池堆砂浚渫土砂処理など）における自然環境・野生生物の保護・保全のため対策

▲ブナ林の中を走る全国でも数少ない路線の一つであるＪＲ只見線

次の10年に向けて

はるか昔から続いてきた只見の自然や生活文化を守りながら、自然と人との共生を実現し、豊かで持続可能な地域社会を目指すという目標達成には、まだ道半ばです。次の10年に向けて、自然首都・只見に暮らす私たちは、都市では得られない自然環境と充実感のある生活文化を目標に、只見ユネスコエコパークを活かして、多様な課題に取り組んでいければと思います。

▲国道２８９号は地域活性化が期待される一方、自然や伝統的な文化への配慮も求められる

ただみ・ブナと川のミュージアムでは、企画展「誕生から10年。只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、これからを考える」を開催中です（9月1日まで）。ここで紹介しきれなかった取組や成果の紹介やユネスコエコパークはまだよく分からない、という方にもわかりやすく解説しています。課題を皆さんと考え、意見をいただくコーナーも設けられ、ユネスコエコパークで豊かな只見町を作っていくことを考える機会としてはいかがでしょうか。

世界では、2030年までにネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せること）を実現することが国際目標となっています。日本もこの目標を達成することを国家戦略に組み込んでいます。そうした流れを受け、只見町も「ネイチャーポジティブ宣言」を行い、ユネスコエコパークの更なる推進を目指していきたいと考えています。ネイチャーポジティブの詳しくは、次号から改めて紹介します。